

平成26年度入試問題（帰国生入試）

小論文（出題意図）

（法文学部 言語文化学科）

1

「死ねば無になる」という考え方の解釈に関して、現世中心主義とニヒリズムという二つの側面から論じた文章から出題しました。文章の論理的な構成を読み取って論旨を正確に理解する読解力、問われている点を正確に把握してそれを論理的に説明する能力を問いました。

問1では、文章の論理的な構成を把握し、それを簡潔に記述できるかを問いました。「死ねば無になる」という考え方が流行している理由として俎上にのぼっている、「現世中心主義」と「科学の影響」という二つの要因を筆者がどのように考えているかを読解することが重要です。

問2では、現世中心主義とニヒリズムという二つの観点から筆者の考えを正確に捉えて、それを簡潔に記述できるかを問いました。

2

声と文字の双方が関わって発生する新しい言語表現について、具体的な例を挙げて論じた文章から出題しました。文章の論旨を正確に理解する読解力、問われている点を正確に把握してそれを論理的に説明する能力、自分の意見を説得的に論述する表現力を問いました。

問1では、文章の論旨を正確に把握したうえで、それを簡潔に記述できるかを問いました。筆者の言う「コミュニケーション文化の新しい動向」を、整理した形で示すことができるかが重要です。

問2では、筆者の主張の鍵となる漢字という存在について、自分の意見を説得的に論述できるかどうかを問いました。根拠を挙げて筋道の通った論述ができるかなど、論理的な文章の表現力を判断します。